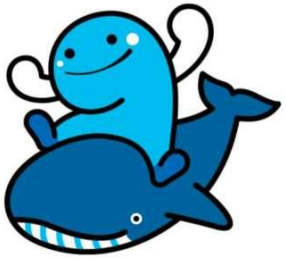
令和６年９月２６日（木）
室戸市統合中学校あり方検討委員会

不登校等の未然防止に関する取組



高知県教育委員会
人権教育・児童生徒課

生徒指導とは

【生徒指導の定義】

生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。なお、生徒指導上の課題に対応するために、必要に応じて指導や援助を行う。

多様性を認め合う共生社会の形成を目指す
社会で充実して生きることの支え・指導・援助（支援）
「させる」生徒指導から「支える」生徒指導への転換



生徒指導提要（改訂版）　文部科学省

生徒指導の目的を実現するために

自己指導能力
を身に付ける

自己指導能力とは、児童生徒が、深い自己理解に基づき、「何をしたいのか」、「何をするべきか」、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、この目標の達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力



生徒指導提要（改訂版）　文部科学省

高知夢いっぱいプロジェクト（夢プロ）は 生徒指導の指定事業 です

【こどもの発達を支える生徒指導に関する調査研究事業】

児童生徒が、自己指導能力を獲得する過程を支える教育活動

生きる力
自己指導能力

【夢・志を育む学級運営のための実践研究事業】

【社会に開かれた生徒指導実践研究事業】

こどもの発達を支える生徒指導に関わる調査研究事業とは

＊概要＊

生徒指導上の諸課題を未然防止するため、全ての児童生徒が安全・安心に学校生活を送ることができ、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加し、活躍できる魅力ある学校づくりを「全ての児童生徒を対象」に関係法令の下、全教職員で取り組む調査研究。

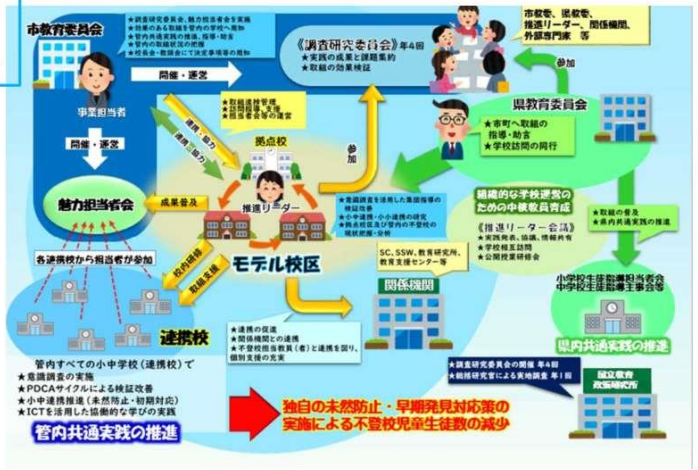
＊中学校区単位で地域を指定し、校区内の小・小、小・中連携し、「魅力ある学校づくり」に取り組む。

＊定期的に児童生徒の実態を把握する意識調査を実施し、それを手がかりにPDCAサイクルを繰り返す。

＊県教委と市教委が連携し、教育委員会（特に指導主事）が果たすべき役割について検討・整理する。

こどもの発達を支える生徒指導に関する調査研究事業
（県単独事業）

大阪成蹊短期大学
中野 澄 教授



夢プロの目指す学校

すべての子どもたちが、
“自分のよさ”を語り、

そのよさを生かして
“将来の夢・志”に向かって、

かけがえのない仲間を大切にしながら、

本気になって
自分の力を伸ばしていくことのできる学校

夢プロの目指す学校

すべての子どもたちが、
“自分のよさ”を語り、

明日も行きたいと思う

魅力的な学校

本気になって
自分の力を伸ばしていくことのできる学校

魅力ある学校づくりで大事にしていること

1．「未然防止」を根幹とする。
2．すべての教員がチームとして関わる
3．自分達の取組を定期点検する
4．子どもたちの声を聞く
5．絆づくりをより意識する
6．校区で取り組む



３つの不登校対策

状態	取　組	目的	対　策
現在不登校ではない（兆し）	集団指導：すべての児童生徒に対する不登校にならないことを主目的とした取組　新たな不登校を生まない	現状維持	未然防止　対象の子ども８９％
現在不登校ではない（あり）	個別支援：兆しの見えた一部の児童生徒に対して行う不登校にならないことを主目的とした取組　＝ 早期発見・早期対応	早期対応	初期対応　対象の子ども７％
現在不登校である	現在不登校状態の児童生徒に対して行う自立支援の取組	社会的自立	自立支援　対象の子ども４％

集団指導

すべての子どもたちを対象とする

学校の本来の役割

全ての児童生徒の「絆づくりの場」
全ての児童生徒の「心の居場所」

「授業」



＊**わかる授業**を行い、**主体的な**学習態度を養う
＊授業の場で**すべての児童生徒の居場所**をつくり充実感や達成感を味わえるようにする
＊ともに学び合うことの意義と大切さを**実感**させる

「行事」



＊**自主的、実践的な態度**や**健全な生活態度**を身につける
＊より大きな集団の一員として、**役割**を分担し合って協力し合う態度を学ぶ
＊他者との関わり、集団との関わり、自然や崇高なものとの関わりなどの中で**自己理解を図る**
＊**集団（社会）の一員として**の望ましい態度や行動の在り方を学ぶ

関わるすべての教職員が、生徒指導のポイントを押さえながら、意識した「未然防止」の取組を行う。

未然防止に取り組むことの難しさ

「未然防止」は、起きていない事象に対する取組

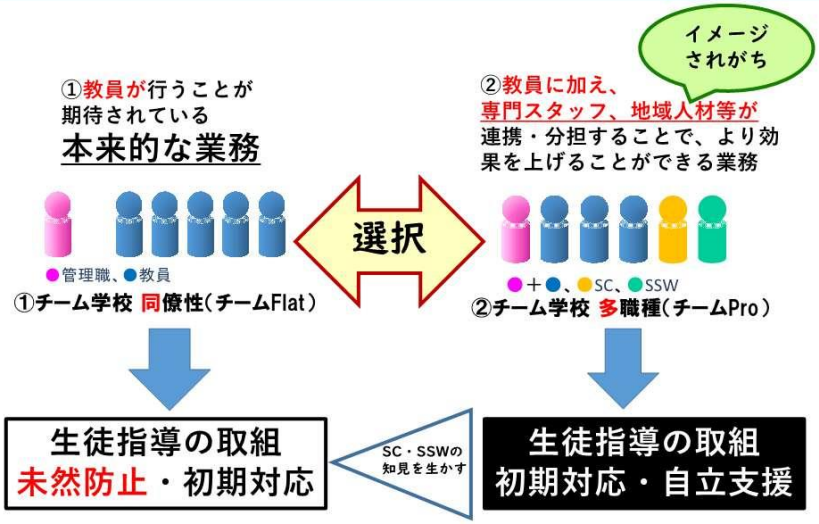
◇教職員が危機感を実感しにくく、目の前で起きている問題との優先度や日常の忙しさが理由となり、後回しになったり疎かになったりしてしまう。

◇既に起きてしまった事象に対する取組と比べ、教職員が成果を実感しにくいため、取組が低調になったり、持続できなかったりする。

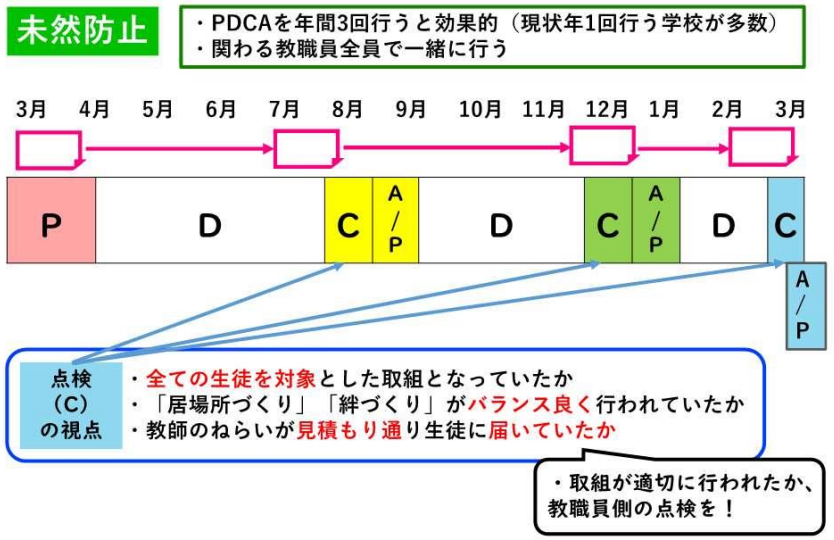
教員のすべき基本（授業、行事等全ての教育活動）を生徒指導のポイントを意識しながら丁寧に実践し、関わる全ての教員で徹底する

結果的に未然防止へ

未然防止で意識されるべきチーム

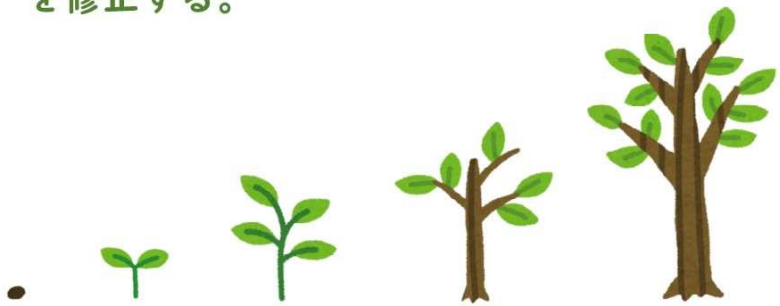


「問い直し（点検）」を学校の日常（文化）に



子どもたちの声を聞く

教育（集団指導）のプロである教師の感覚を、常に質の高い状態に保つために、**子どもたちの声**を活用し、定期的に**ずれ**を修正する。



子どもたちの声を聞く

意識調査

年3回（7月，12月，3月）の意識調査結果を手がかりに，取組の点検・見直しを長期休み等で実施し，次学期の取組につなげる。

現在の学校生活について，あなたはどのように感じていますか。当てはまるものを右の１から４の中から一つずつ選び，その番号に○を付けてください。

	当てはまる	どちらかといえば，当てはまる	どちらかといえば，当てはまらない	当てはまらない
ア　学校が楽しい・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4
イ　みんなで何かをするのは楽しい・・・	1	2	3	4
ウ　授業に主体的に取り組んでいる・・・	1	2	3	4
エ　授業がよくわかる・・・・・・・・・	1	2	3	4

必要最小限の調査で負担軽減も図りながら意味のある取組をねらう
- 学習と人間関係に絞った質問
- 4件法
- 無記名式
- 学年単位で集計
- 1　あてはまる　に焦点化（肯定的評価（1，2）として見ない）

令和５年２月２０日　こどもの発達を支える生徒指導に関する調査研究事業について　髙橋　典久　総括研究官　資料より

子どもたちの声をどう使うのか

＜例＞　エ　授業がよく分かる



① 肯定的評価が７８％ととらえたとき、課題として目がいくのはどこ？

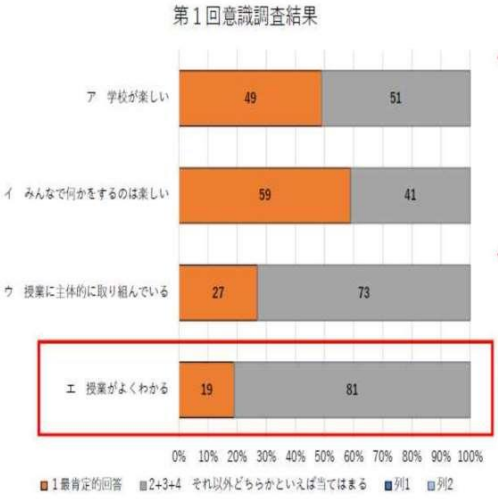
ア　　イ　　ウ　　エ

② 強肯定が２７％ととらえたとき、課題として目がいくのはどこ？

ア　　イ　　ウ　　エ

より多くの子どもに目を向ける≒すべての子どもを対象とする
➡　集団指導の取組点検である事の趣旨をずらさない工夫

子どもたちの声を改善にいかす



＜問い①＞
この学校の課題は何？

▶ ２割しか
よく分かっていない
→根本的な授業改善が必要

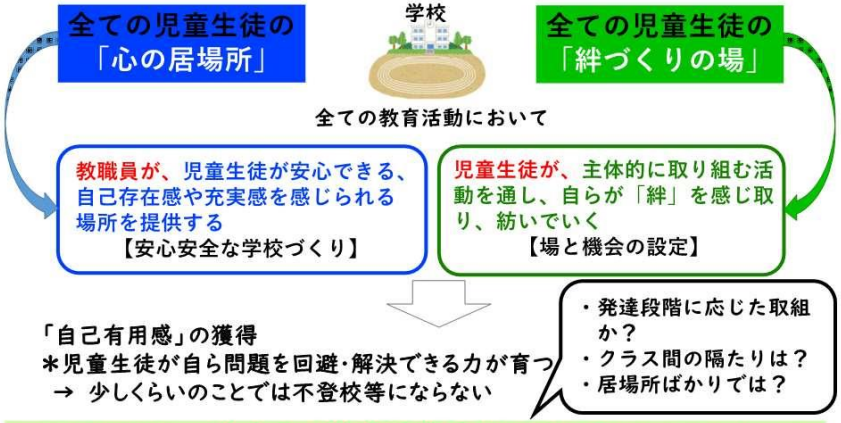
＜問い②＞
誰（どこ）を対象に取り組む？
目標は？

▶ ８割以上の生徒を対象に
分かる授業づくりを

対象生徒：８割以上（全員？）
実施教職員：全教科・組織的に

令和５年２月２０日　こどもの発達を支える生徒指導に関する調査研究事業について　髙橋　典久　総括研究官　資料より

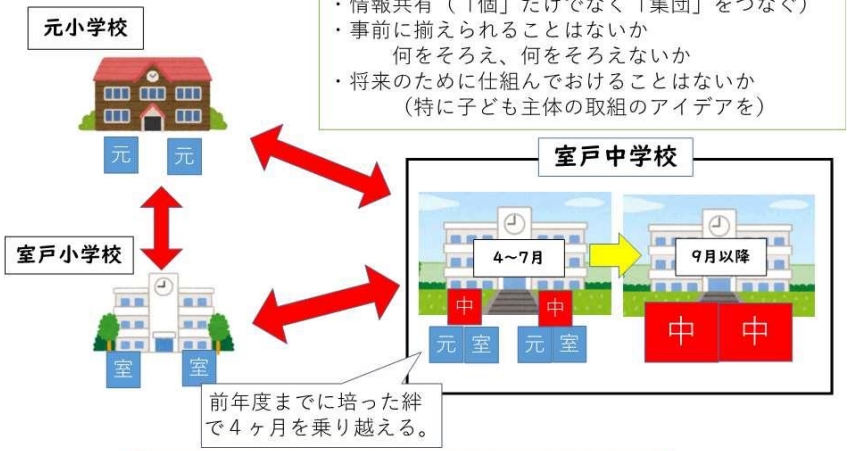
「学校」の大前提　～児童生徒の健全育成～



既に学校では、あらゆる教育活動において「居場所づくり」と「絆づくり」とが行われているが、違いを理解し、それぞれが適切にかつバランス良く行われる必要がある。

参考：国立教育政策研究所　生徒指導・進路指導研究センター　生徒指導リーフ２、14、18

学校間の連携



のりしろの発想で！
教員の思いもしっかりと繋げ、しっかり受け取る。

室戸市統合中学校に向けて

指定終了後も続く「学校文化」へ・・・

◎話合い活動が
充実した学級活動

◎自治的な
児童会・生徒会活動

◎子どもが活躍する
学校行事

教員主導から子ども主体へ



室戸市統合中学校に向けて



ご静聴ありがとうございました

